

庄内森とみどりのフェスティバル鶴岡

10月16日（土）、17日（日）の両日、鶴岡市小真木原公園内で、庄内森とみどりのフェスティバル実行委員会、庄内地方林業振興協議会が主催する「庄内森とみどりのフェスティバル2010鶴岡」に参加しました。

16日は快晴の天気恵まれ、17日はくもりで午後2時頃から雨降りの天気となりました。

この「庄内森とみどりのフェスティバル2010鶴岡」は昭和63年から行っており、今年で23回を数えました。このフェスティバルは、庄内地域における森林の適正な管理を推進するとともに、再生可能な地域産木材の利用拡大を図るため、地域住民による森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割やみどり豊かな自然環境の重要性について広く県民にPRするという趣旨です。鶴岡会場の特徴としては、鶴岡市の農林水産業まつりも一緒に行われ、賑わいを増すことです。

フェスティバルの参加者は、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、庄内森林管理署、山形県、鶴岡市、東田川郡内にある森林組合・林業関係者・農業関係者等、多数の団体等が出展しました。

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターでは、センターが取り組んでいる「朝日庄内プロジェクト」を紹介する「パネル展示」や、朝日生態系保護地域や緑の回廊からわき出ている「清水」やその清水で煎れた「コーヒー」の提供、ネイチャーゲーム「石立」、木の枝等を利用した小木工「モックンづくり」等を実施しました。

パネル展示では、当センターが取り組んでいる活動「朝日庄内プロジェクト」に理解を頂きました。清水の試飲では、用意した4箇所清水を飲んで、どの清水が好きかなど職員に告げてくれるお客様も多く、一番人気は滝太郎清水でした。コーヒーの提供では、緑の募金にご協力を頂き、募金箱に備え付けの小鳥の突然のさえずりに驚くお客様もいました。石立では、四国土佐直伝の石立技術に関心を持つお客様が多いようでしたが、石立に時間を要し悪戦苦闘していました。モックンづくり等では、幼児から大人まで、木と枝が醸し出す魅力に触れて、参加者好みのアクセサリーづくりに奮闘していました。

市民等の皆さんとふれあい。多くのご意見や感想を頂いた、楽しい2日間となりました。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター